

原 剛教授略歴および著作目録

氏 名 原 剛（はら つよし）

学 歴

1954 年 3 月 東京外国語大学英米学科卒業
 1959 年 3 月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
 1971 年 4 月 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程入学
 1981 年 3 月 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程退学
 1985 年 2 月 早稲田大学より経済学博士の学位を授与

職 歴

1957 年 5 月 東京都立北野高等学校定時制課程教諭就任
 1965 年 4 月 東京都立豊島高等学校定時制課程教諭転任
 1980 年 4 月 城西大学経済学部非常勤講師就任（1985 年 3 月まで）
 1982 年 4 月 武蔵野女子大学文学部非常勤講師就任（1984 年 3 月まで）
 1985 年 3 月 東京都立豊島高等学校退職
 1985 年 4 月 城西大学経済学部助教授就任
 1987 年 4 月 城西大学大学院経済学研究科兼任
 1989 年 4 月 獨協大学経済学部非常勤講師就任（1999 年 3 月まで）
 2000 年 4 月 駒沢大学文学部非常勤講師就任（2001 年 3 月まで）
 2002 年 3 月 城西大学経済学部教授退任

研 究 業 績

著 書

『19 世紀末英国における労働者の生活状態』1988 年 3 月勁草書房（昭和 62 年度文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」と城西大学経済学会研究図書刊行助成金を受領）

論 文

「新救貧法をめぐる英国における最近の研究」1976 年 9 月『社会経済史学』第 42 卷

- 「ファミリ・ウェイジ：19世紀英国におけるその觀念の成立」1977年9月『社会經濟史学』第43巻
- 「英米における19世紀ブラジル經濟史の研究」1979年『社会經濟史学』第45巻
- 「19世紀英国の教育と労働者階級の社会移動」1982年1月『思想』691号
- 「プアマン考」1983年3月『經濟史讃'86』慶應通信社
- 「19世紀前半の英豪関係；スコットランドとオーストラリア」1983年3月『城西大学大学院研究年報』第2号
- 「19世紀イギリスにおける中等および高等教育と社会移動」1985年12月『城西經濟学会誌第21巻
- 「階級社会の論理」1987年3月『最初の工業国家を見る眼』早稲田大学現代政治經濟研究所研究叢書2
- 「19世紀後期オーストラリアの社会；労働者のパラダイスカ」1989年3月『城西大学大学院研究年報』第5号
- 「17・18世紀ヨーロッパの人口史的背景とイングランドの人口成長」1990年3月『城西大学大学院研究年報』第6号
- 「パブリックスクールの教育とイギリス經濟の衰退—ウィーナー・テーゼ批判再考」1991年3月『城西大学大学院研究年報』第7号
- 「産業革命と世界貿易の変化」1991年10月『世界史のしおり』帝国書院 第54号
- 「イングランドの人口転換期に関する一考察」1992年1月『經濟史讃'92』慶應通信社
- 「人口転換とその後の人口—イングランドとウェールズ」1992年3月『大英帝国の光と影』早稲田大学現代政治經濟研究所研究叢書6
- 「イギリス市民革命」1992年8月『ヨーロッパの反乱と革命』山川出版社
- 「イングランド救貧法再考」1993年3月『城西大学大学院研究年報』第9号
- 「救貧」「救貧税」1994年2月『歴史学事典』1 弘文堂
- 「産業革命期のイギリス社会」1994年12月『概説西洋社会史』有斐閣
- 「1994年の外国經營史—イギリス」1996年4月『經營史学』第31巻
- 「救貧法研究ノート」1997年3月『城西大学大学院研究年報』第13号
- 「コンヴィクト論争と英国犯罪史研究の背景」1997年3月『社会經濟史学』第62号
- 「人口の妨げを人間社会一般に適用するための一考察」1997年11月『人口学研究』日本人口学会
- 「マルサスおよびマルクスの予言と19世紀英国労働者階級の人口と生活状態」1998年3月『城西大学大学院研究年報』第14号
- 「産業革命と飢餓からの解放？」1999年3月『城西大学大学院研究年報』第15号

「ヨーロッパ文化における人種差別感の変遷とアボリジニに対する英国政府の変化」『城西大学大学院研究年報』第16号 [1]

「人口」「イギリスにおける労働者の生活状態」2000年6月『新マルクス学事典』弘文堂

「20世紀初期イングランドの労働者の生活—2編の伝記による都市と農村の事例」2001年3月『城西大学大学院研究年報』第19巻

書 評

「A. Gamble 著『イギリス衰退100年史』」1989年11月

「Cain/Hopkins 著『ジェントルマン資本主義と大英帝国』1996年7月『社会経済史学』第61巻

翻 訳

F. J. Fisher, 'Was the 16th and 17th Century Dark Ages in English History?' Inauguration Lecture

「16・17世紀はイギリスの暗黒時代か」1969年10月『経済史の方法』弘文堂

M. J. Wiener, *English Culture and the Decline of the Industrial Spirit, 1850-1980*, 1981 Cambridge University Press

『英国産業精神の衰退—文化史的接近』1984年9月 勁草書房

J. Langoton & M. J. Morris(ed.), *Atlas of Industrializing Britain 1780-1914*, 1986 Methuen

米川伸一氏と共訳『イギリス産業革命地図』1989年11月 原書房

Rex Pope(ed.), *Atlas of British Social and Economic History since c. 1700*, 1989 Routledge

米川伸一氏と共訳『イギリス社会経済史地図』1991年3月

M. Sanderson, *Education, Economic Change and Society in England 1780-1870*, 1992 The Economic History Society

『教育と経済変化1780-1870年のイングランド』1993年2月 早稲田大学出版部

William Woodruff, *Billy Boy, The Story of a Lancashire Weaver's Son* 1993 Ryburn Publishing

1999年にEland社からThe Road to Nab End, A Lancashire childhoodと書名を変えて出版

『社会史の証人』1994年12月 ミネルヴァ書房

William Woodruff, *Down the Road* 1997

『平和主義と戦争のはざままで—続・社会史の証人』1997年9月 ミネルヴァ書房

E. J. Hobsbawm, *On History*, 1997 David Higahm Association

『ホブズボーム歴史論』2001年9月 ミネルヴァ書房